

校長室だより「伸びゆく梢」Ⅱ

文責 柴田町立船迫中学校 校長 三浦 道子

2 学期始業式 式辞

秋も一日一日と深まってきました。秋休みは充実していたでしょうか？さて、1 学期の終業式では4名の代表の皆さんが素晴らしい所感を述べてくれました。それは、代表者だけでなく一人一人が自分のこととして考えてほしい内容でした。

さて、2 学期のスタートにあたり、皆さんに意識してほしい言葉があります。それは**自己調整力**です。初めて聞く言葉かもしれませんが、これからの社会を生き抜くために身に付けてほしい力です。簡単にいうと、①「**目標をもつ**」②「**実践する**」③「**振り返る**」という三つの行動のサイクルです。なあんだ。そんなこともうできているという人もいますが、しっかり聞いてください。

まずは、目標について。皆さんは、通信票を渡されて、それぞれに課題を見つけ、今後の目標をもったはずですが、たとえば、「数学の評価を3から4にする」という目標を立てたとします。次に立てた目標のための実践が必要です。問題集で勉強したり、分からない箇所を先生や友達に聞いたりと、間違ったところを何度も繰り返したりと工夫が必要です。そして、その実践のためには、時間もたくさん必要になります。目標を立てる時は、実践できる時間をどうコントロールするかもポイントになります。

最後に振り返り。目標を実践しクリアできた場合は、とても自信になります。自信になれば、その行動パターンを次は別なことに生かすことができます。

漢字検定や英語検定に挑戦してみようとか、得意教科を更に伸ばしてみようとか、部活動で技術向上に応用してみようとか、委員会で新しい企画をしてみようとか、自信は新たな挑戦につながります。

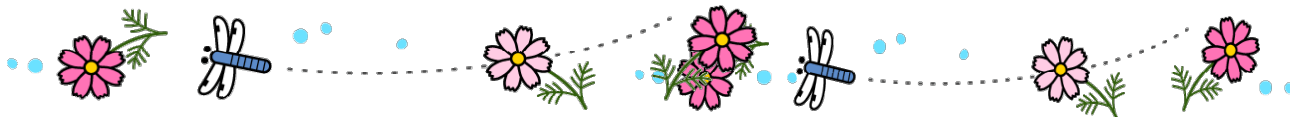
逆に目標を達成できなかった場合もあります。そんな時は、その原因を徹底的に考えましょう。時間の配分が甘かったとか、少しゲームに夢中になってしまったとか、できないことを人のせいにしていたとか、自分を評価し、どうしたらできるようになるのか、じっくり考えることが大切なのです。

結果についてしっかり振り返ることが、自己調整力では最も重要です。目標が、単なる「絵に描いた餅」になってはいけません。

自己調整力は勉強や部活動、委員会活動や行事、普段の生活等、これから生きていく中で必要な力として注目されています。社会で働く大人や先生方にも必要な力です。①**目標をもつ** ②**実践する** ③**目標は達成できたか、できなかったか振り返る。を意識してください。**

「自己調整力」は、皆さんが毎日記入している F ノートで確認するのも一つの手段です。まずは自分の目標を書いて担任の先生に見せてください。そして、実践した記録も書いてみましょう。きっと、自己調整力がつき、それが皆さんの力になるはずですが。

一人一人が自己調整力に磨きをかければ、皆さんの輝きが増し、船迫中学校はますますいい学校になります。皆さんの成長を大いに期待しています。



1 学期終業式 式辞

10月7日

今年度から2学期制がスタートし、10月が学期の区切りとなり、明日から秋休みとなります。短い休みですが有効に活用してください。

学年と生徒会代表の4名が所感を述べてくれましたが、学年の特徴や思いがあふれていました。1年生の優摩さんは、未経験だった剣道部に入部し、練習を重ねて試合に臨んだけれど、新人大会で負けてしまった。しかし、そのことで次の目標が生まれ、これからも頑張りたいと思っているところが素晴らしいと感じました。剣道部の練習を見ても、優摩さんの意気込みを感じます。

2年生の瑠理亜さんは、先輩として1年生をリードできたことに成長を感じています。迷いや戸惑いもあったでしょうが、部活動や委員会活動で、先輩の後を引き継いでリーダーシップを取っていることに、成長を感じます。

3年生はやはり受験生らしいコメントですね。奏汰さんの話から、より一層受験に向けて勉強していく覚悟を感じました。分からないことは友達や先生に質問するとありましたが、本当にそういう気持ちが大切ですし、友達に教えることで理解が深まるはずです。

生徒会の管野恵大さんからは、全校生徒で意見を出し合い、決まりを作ってそれを守ることによって楽しい学校生活にしていこうという確認がされました。また、行事で迫中が大切にしてきた気持ち「何事も楽しもう」という意気込みが述べられました。

4名の皆さんだけでなく、今、それぞれに1学期を振り返り、2学期に期待を膨らませているはずです。

さて、これから渡される通信票ですが、担任の先生方が一人一人の良さを認め、中学校生活の頑張りを所見に書いています。各教科の評定を見て、自分を褒めるところは褒め、今後、改善が必要なところは、どうすればさらに自分を高められるかイメージしてください。

たとえば、数学の成績が3だったとします。観点はBBA。これをABAにすれば、4になります。数学の知識・技能の評価を上げるために、ひたすら計算問題に取り組むとか、ワークを何回も繰り返すとか、友達や先生に聞くとか、方法はたくさん考えられます。

それをやるか、やらないかは自分次第です。家族に小言を言われる前に、通信票を見て、自分が何にどのように取り組むか作戦を立ててください。少しの工夫や時間の確保で成績は上がってきます。授業に集中することや、宿題を提出して理解を深めることや、分からないことをそのままにしないことは、中学生として当たり前、**凡事徹底**だと思っています。

2学期も頑張ってください。

